2014S2-001 有機分子集合体の物性発現機構の解明とその最適化のための構造物性研究

Structural sciences for the understanding of the origin of physical properties and optimization of functions in the organic molecular assemblies.

実験組織 研究代表者 熊井 玲児(KEK 物質構造科学研究所 PF & CMRC) 産総研FLEC(山田、峯廻、堤、野田、井上)、物構研CMRC(小林、中尾、佐賀山、村上)、CROSS(中尾)、岡山大(近藤、野上)、東北大(野田、渡邉)、理研(賀川) 東大(佐藤、須波、宮川)、東大物性研(森、上田、古田、鈴木、沼尾、山田) 課題有効期間 2014年4月[~]2017年3月 研究目的 種々の有機材料結晶(単結晶、あるいは薄膜)における電子相転移に伴う構造変化を精緻に観測することを目的とする。それぞれの結晶における精密構造解析、極限条件下(低温、 低温・高圧、電場下など)における構造変調などの知見に基づき、種々の物性(電気伝導性、磁性、誘電性、あるいはそれらの交差相関物性)発現機構を明らかにする。 実験ステーション BL-8A, , BL-8B, BL-3A, BL-4C, BL-7C 2014年度の進捗状況 水素結合系有機強誘電体における水素結合長と誘電特性 電荷移動錯体型強誘電体における相制御 O-(H)-N 一次元水素結合鎖を形成する(反)強誘電体 BL-8A, 8B BL-8A, 8B における転移温度・分極値の水素結合長依存性 TTF-CAIC代表される電荷移動錯体型の 強誘電体では、分子の価数の変化にとも なう電子移動によって、単純なイオン変位 $T_c(FE)$ $T_c(AFE)$ から予想される値よりはるかに大きな分 r_c (K) 極を示す。TTF-CAとよく似た構造を示す 4 水素結合長(N-O距離)とTc, Ps に直線関係 0 TTF-Ql₄をもとに、置換ハロゲンおよび静 QBrada 水圧印加によって、転移温度の制御を試 at-C/cm2 Crystal Structures of $(TTF)_x(QBr_{4-n}I_n)$ Ionic 1:1 (TTF-BA type) Phz-H₂xa H-66dmbp-Hca å Temperature dependence of dielectric constant 水素結合長 -(a) 20 39. 300 kHz 25-QBr,I 立体障害の導入による水素結合長の増大 15 Neutral 1.1 (TTF-CA type) ²emittivity 10 [H-dppz][Hca] OBr 4 Ü H₂xa dppz Neutral 2:1 J. Am. Chem. Soc. (2013) P-T Phase diagram of TTF-2,5-QBr2l2 Pressure dependence α-[H-66dmbp][Hca] における強誘電-反強誘電相転移 ^{強誘雷相}反強誘電的構 Crystal Structre under HP 強誘電相 1 64 GP Ioni Fer т P α-[H-66dmbp][Hca]では、立体障害の導入 により、分子の平行移動と回転の自由度が生 じ、高温で構造相転移が起こったため。水素 結合長から推測されるTcよりもみかけのTcが ⇒h T = 10 K, P = 0.2 GPa 低い 高温相 (>378K)は反強誘電構造 P21 → P21/c 量子強誘電状態ure (GPa) K. Kobayashi et al., Chem. Eur. J., 20, 17515 (2014). FLEC 半導体ポリマーの分子配向-デバイス特性の相関 BL-7C GIXD による分子配向評価 ESR による分子配向評価 a.: 2.0013, g.: 2.0031, g.: 2.0022 <u>ボトムゲート型</u> <u>トップゲート型</u> $\psi^{0}_{ij}\psi^{0$ ネル 表面 ate ≯ĝ ate 23 0 g值 角度依存性 UB3L エッジオン BGTC -30 TGBC ~ / A ✓ 薄膜の表面と基板界面で分子配向が異なることを発見 q値異方性なし q値異方性あり ✓ 2種類の分子配向が寄与する場合に高移動度が得られることを明らかにした。 ✓ エッジオンとフェイスオンの2種類の分子配向が混ざった膜構造 下側はエッジオン、上側はフェイスオン カルコゲン及び重/軽水素置換による純有機導体における磁性・伝導性の制御 **BL-8A** X = S: Cat-EDT-TTF X = Se: Cat-EDT-TSF Y = H or D $\langle \downarrow \rangle$ K) 270 k



主な発表論文・学会発表

m. Eur. J., 20, 1909-1917 (2014)

Jharge-Transfer Comprexes: Crient, Luis, V., 2019, 2019, 1919, 2014, 1919, 2014, 1919, 2014, 1919, 2014, . Ioki . Mui

転換相関有機導体α, α',(BPDT-TTF)2ICI2の絶縁体状態の研究以構本他、日本物理学会2014年秋季大会 リマー半導体の電荷変調分光: 調経子階相互作用にもとざく分子状序評価2」松岡他、日本物理学会2014年秋季大会